

【参加者】 荻原副会長、岡田技術教育局長、野瀬全国技術部長、五十嵐（北海道）、藤井（デモ）  
宮腰（デモ）、渡邊（東北）、森（関越）、横川（デモ）、吉越（関東）、三宅（東海・上級養成）、  
池田（関西、事務局）、斎藤（中央講師）、伊藤（中央講師）、小川（上級研修）、赤木（中央講師）、  
澤（上級研修）、明星（上級研修）、和田（上級研修）、米村（上級養成）、富田（上級養成）、  
神倉（上級養成） 22名

## ミーティング

### 1 開会

### 2 岡田技術教育局長あいさつ

今日の雪上1日目、お疲れさまでした。疑問に感じたことはそのままにしないでキチンと整理して持ち帰ってください。先日行われた秋の全国理事会で承認されましたが、皆さんにお答えいただいたアンケートの内容を元に現教程を改訂していきます。今回の部会はこの改訂の話を中心に協議したいと思っています。

### 3 野瀬技術部長による内容確認

今回の技術部会については、上級研修者、上級養成者の参加が非常に多く、そちらにも対応できるようないつもとは違う内容での部会となりました。全国としても上級指導員を目指す方が多くおられることは大変喜ばしいこと。全国としても上位指導員を目指す方を全力でサポートしていきたい。また、教程改訂にむけて皆様のご協力をよろしくお願いします。

### 4 議題

#### (1) 今シーズンテーマについての質疑

岡田 雪上確認で「迎え角」についてきちんと理解できているのか不安を感じる部員がいるように感じる。

野瀬 「迎え角」とは、動画でも説明している通り、体の進行方向と外スキーの向いている角度の差のことを言う。主にスピードコントロールに使う技術である。

吉越 体の進行方向というより重心が動いている方向という方が分かりやすいのではないかと。

野瀬 その認識で良いと思う。スキー用語は難しいがスキー指導員として覚えておくようにしたい。教程技術が誤った認識で広まらないように、用語の理解は大切である。

岡田 教程改訂では用語解説を充実させていきたい。

五十嵐 今シーズンのテーマで斜滑降は迎え角がゼロになる。ターンを最後まで仕上げるのに斜滑降は大切という認識で良いか。

野瀬 外圧を受け止めた状態を維持し、スキーの走りを引き出す局面、安定した伸展加圧のポジション（スキーの基本姿勢）に戻る局面として斜滑降がある。

荻原 斜滑降はターンを終わらせ、次のターンに入っていく準備である。ヘンリーック・クリストファーセンの動画（YouTube：[578\) HENRIK KRISTOFFERSEN SKI BASICS MASTERCLASS - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=578HENRIK_KRISTOFFERSEN_SKI_BASICS_MASTERCLASS-YouTube)）で斜滑降に着目したトレーニング法を紹介している。とても参考になる動画なのでぜひ確認してほしい。

野瀬 斜滑降で股関節の回旋をゆるめるとローテーションになり単なるトラバースになってしま  
う。動きを止める局面ではなく積極的に板を走らせる局面である。  
荻原 グランジャーでの研修でもクリストファーセンの練習はとても効果があるように感じた。  
ぜひ皆も挑戦してほしい。  
吉越 斜滑降は次の谷回りにつなげるためにも大切である。

## (2) 教程改訂に向けてのスケジュールについて

岡田 教程の改訂に向けての取り組みについて 25 年度全国理事会において了承をもらい、今年度  
からの取り組みとして進めていく。スケジュール的には  
今年（改訂を進める 1 年目）’ 25～26…全国の指導員から教程改訂についての意見を吸い上  
げ、春季技術部会後に取りまとめる。26 年ゴールデンウィークに教改訂案のたたき台として  
映像を撮り確認する。

来シーズン（’ 26～27）…たたき台を元に 27 年ゴールデンウィークに本番撮影をし、再来年  
（’ 27）の夏に編集する。

3 年後のシーズン（’ 27～28）…ゴールデンウィークに最終校正の映像撮り。

### 2029 年シーズン発刊

文章等、実務は荻原副会長を中心に行う。

荻原 現教程作成時は映像を先に撮り、後に文章を作成したが、今回は部分改訂ということもあ  
り、シナリオを精選して映像にしたいと考えている。

野瀬 現教程において「ベーシックパラレルターン」「足裏切り替えターン」「真下への横滑り」  
の伝達に苦勞を感じている。これらの解説文を分かりやすく変更してほしいという要望を受  
けている。その他に分かりにくい部分があれば出して欲しい。今までよりもより具体的にど  
こをどうして欲しいかを各都道府県から意見集約してほしい。

澤 バリエーショントレーニングを追加してほしいという意見がある。ただバリエーショント  
レーニングを載せるのではなくどこにつながるバリエーショントレーニングかが分かる指導し  
やすい。

荻原 自分ができないことをどうやってできるようになったのか、スキー技術の疑問を解決でき  
た方法を持ち寄りたい。

和田 野瀬さんが解説してくれているシーズンテーマと教程との関連など、そういうところが知  
りたい。

荻原 言われたことをどうできるようにしていくか、やっているつもりではなく工夫を加えて表  
現したい。

荻原 前回の教程改訂については教程制作委員会を立ち上げ取り組んだが、今回は全面改訂では  
なく部分改訂であり、現教程の流れは踏襲する。これは前回の全指導員を対象としたアンケ  
ート結果からの要望でもある。今回は教程制作委員会は立ち上げず、ブロック技術部員を中  
心として進めていく。

小川 現教程をすべて読んでもカリキュラムとして違っている部分はないと思う。丁寧な解説を  
追加していただけるとさらに良いものになると思う。

和田 スキー協の次の 10 年を考えて、予算をかけても良いものを作りたい。

## (3) 教程改訂に向けての方向性について

野瀬 スキー人口の高齢化により、疲れないスキー、安全でケガしにくいスキー技術などを盛り込んでほしいという要望がある。高齢者特有の特徴を配慮した指導法などは必要なことだと感じるが、指導者に必要とされている配慮などのスキー技術以外のことはリーダーテキストに記載するほうがスキー技術の展開としては分かりやすいのではないか。観点がばらけてしまうと教程としては読みにくいものになるのではないか。

宮越 指導法は別冊化にしてはどうか。教程本はもっとシンプルにしてもよいかも。用語解説、配慮の部分も別冊化するか、どこまで教程に入れ込むかが難しい。

藤井 現教程は文字が多い。繰り返されている文字・文章は精選し、イラストも多載し、読みやすくしたい。

小川 私は前回の教程作成に携わって大変勉強になった。次期改訂には若い人たちに活躍してもらいたい。自分自身の成長につなげて欲しい。人材育成の観点からもお金をきちんとかけて良いものを作ってもらいたい。

荻原 予算の関係もあり実際の改訂作業は少人数でやることになると思うが、作成はブロック技術部員全員で取り組んでいく。教程改訂の一員だと思ってやって欲しい。

横川 シンプルな教程は良いが、技術を細かく刻んでいくような練習方法が入っている方がスキー協所属でない人でも理解できる。文字が多いので「〇〇すると〇〇できる」と、簡潔で親しみやすい教程本になるのではないか。

野瀬 指導する上で誰が教えても同じになるようにしたい。教程をシンプルにすることは、教える人たちのレベルを上げる必要がある、ということである。

伊藤 文章だけで伝えるのは難しいので、メイト引用、DVD 視聴などいろいろな技術を使って伝達できるようにしてほしい。

吉越 読み手によって理解に差がでないようにしたい。

五十嵐 アンケートに答えてもらうクラブが減ってきた。教程から離れて独自の滑っているところが多くなってきている。教程をしっかりと読み込んでいるクラブからは的確な回答が多かった。

和田 志向が技術からレクリエーション的になってきている。高齢化も進んでいる。

岡田 何のために教程本があるのか、目的を見失わないようにしたい。

五十嵐 教程は会員指導の技術向上に役立っている。

岡田 伝え手側がきちんと伝えられるものと考え、技術向上以外に自分たちの楽しさを向上させるものにできたら良い。検索サイトで「スキー協」で検索をかけると、YouTube がたくさん出てくるので、スキー協会以外でも観ている人は結構多い。

三宅 東海は各県で特色豊かなブロックだが教程に反発している人もいる。愛知県には上級指導員がいないのがその原因の一端ではないか。

米村 東海ブロックでは、一つ上の指導員に挑戦しようと先導し、最年長の私が上級指導員を目指している。技術の伝承をどう行っていくかが大切である。ここで話したことが各都道府県に伝わっているのか、伝達の仕方、指導力不足で課題である。

野瀬 教程と指導力は両輪である。指導力向上にも努めていただきたい。

森 教程本をシンプルにするのは難しいと思う。むしろ、現教程の倍ほどのページ数に増やして中身を充実させてほしい。

荻原 この教程の一番良いところは、目的がパラレルターンと明記されていることである。また、フラットポジションが載っていて素晴らしいという人もいる。皆さんも教程の核になるところを出して欲しい。

- 米村 どうして後傾になるのか、こうやってやれば良いという克服法があると良い。
- 赤木 子供は滑りを真似るのがうまい。一方、大人は頭の理解から入るので、スキー理論を教程を熟読して伝えることが大切。
- 明星 現教程はボリューム的にはとっつきやすい。解説と図解でページが跨っているところがあり見にくい。見やすいレイアウトも考えていただきたい。
- 米村 現教程はDVDでの発行ですが、今どきはDVDは見ない。教程にQRコードを差し込み、スマホで動画を見ながら解説書を読めるような方法はどうか。
- 池田 読むほどに理解が深まってくるので文字は良いと思う。
- 神倉 白紙の部分が多いレイアウトなので、そこに図や絵を差し込んでもよいのではないか。
- 富田 QRはあった方が良い。漫画風に描くのも一つ。
- 渡邊 シンプルで見やすい紙面で良い。この現教程本の内容は十分に少なく感じる。ボリュームを増やしてもよい。
- 荻原 真上から撮った映像をドローンなどを使って分かりやすくする工夫をして欲しい。
- 小川 スキー協でドローンの免許を持っている人もいたので活用しても。
- 野瀬 大変有意義な話し合いになりました。今シーズン、各都道府県の指導員の意見をしっかりと全国に伝えていただきますようよろしくお願いします。

以上